

① キリストは、一口に言はば、生ると生ずる
を言葉である。

彼は「苦しむ苦しみや不安や恐怖はど」で
食ふことか生きて行くことか「生る」
私に、もつと生ずることか「生る」と
=と。もつと^曲かにもつと^曲にたこと
ん生ずることか「生る」にさかして「生る」
たこと「生る」を身をもつて「生る」に
である。

大きな**基盤**の上に人間はのりつがって
いて、不安や苦しむ苦しみや恐怖はあ
とから来るものである。その**基盤**
は人間を生かすことである。
(生かす)

大きなものにのりつがっていることか忘れるか
ら人間には**権**と不安 etc. がある
のである。

① キリストは人間が彼において初めて人間性
を回復されるという告知であった。

(彼にあっては - 応除 =) 人間性とは
p.1 の註釈で述べられている。

② イスはマリアが聖霊にあってみこまれたと
される。……つまりイスの誕生には理
由がないということができる。

③ この人生においてそれが「本当な」と思われ
るものは、大抵理由もなく存在して
決定されるものである。

④ 愛というものは、常識には学べないというより
むしろ、愛こそが愛である。愛は、愛それ
自身を愛してこそ「愛」である。愛は、
愛は、愛の理由も必要なく存在して
いる。愛は、愛の理由も必要なく存在して
いる。

生も同じである。

